

コミュニケーション講座

令和元年9月19日（木）

話す技術・伝える技術

ものごとを聴衆にわかりやすく伝えるため、話の内容を整理して聴衆にわかりやすく伝えることは大切なスキルです。課題研究では、どんなに素晴らしい研究をしても、その研究内容を聴衆に上手く伝えられなければ、素晴らしい研究とは認めてもらえません。

IBC岩手放送のアナウンサーを経て、現在はフリーのアナウンサーや司会、そして社会人ビジネスマナー等の研修講師として活躍している大高智佳子さん（Next-Stage）を招き、2年生を対象にコミュニケーション講座を実施しました。講座では、プレゼンテーションの目的をあらためて考え、伝えるためのポイント（分かりやすいか？道筋が明確か？印象に残るか？）を確認し、発声やイントネーション、スピード等の話す技術を学びました。また、「伝えた」の一方ではなく「伝わった」の双方向にするための伝える技術を学びました。



【発表実践のチェックポイント】

- 声が明るく通っているか
- 話し癖はないか
- 語尾は聞き取れるか
- 間の取り方は適切か
- アイコンタクトをとっているか
- 分かりやすい言葉か？
- データを効果的に配置しているか
- データを効果的に説明しているか
- 顔の表情は？
- 好感を持てる態度か？

〔生徒の感想（一部抜粋）〕

- ◇ 第一印象がその後の発表に大きく影響することが分かった。原稿をそのまま読むのではなく、伝えたいことを自分の言葉で熱意を持って発表したいと思った。
- ◇ 社会に出てからも大きな場で伝えたり話したりする場面が増えるので、声のトーンや大きさ、アイコンタクトなど、どうしたら相手に伝わるか自分で考えて話すことを心がけていきたい。
- ◇ 私は声が小さくて、友達や家族によく聞き返されるので、今日学んだように口の開く大きさや語尾、声のトーンを意識して少しずつ改善していきたい。中間発表では、メンバー内でチェックポイントを確認し合ってよい発表にしていきたい。
- ◇ 大高智佳子先生の話し方や声の通りが素晴らしく圧倒された。私は普段もごもごした感じの話し方だったので、はきはきと発表して相手に好印象を持ってもらえるようにしたい。